



# たいしも通信

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

令和8年も平穏にスタートすることができました。これもひとえに、今この時にも任務に就いておられる現職自衛官の方々のおかげです。これらを踏まえた上で、今回も防衛関連ニュース第15弾をお送りいたします。初夢というか、夢物語から抜けつつあるものとして、前回のレールガンに続き、今回も火薬を用いないもう一つの兵器、レーザー兵器について取り上げます。

## ◆そもそもレーザー兵器とは

レーザー兵器とは、強力に集中させた光(レーザー光)を照射して対象を破壊・無力化する兵器のこと。とはいえばSF映画に出て来るような、スペックと物を切つたり爆発させるようなことはまだ不可能で、光を当てるにより過熱し、部品の破損や部分的溶解を起こさせる、といったものが現実です。当然、レーザー光を発生させるには相応なエネルギー(電力)が必要であり、それが最大のネックとなっています。また、射程も数km程度、雨や霧といった視程障害にも弱いといった弱点を持っています。とはいえ、光速なので回避がほぼ不可能、発射音や煙がなく、電力さえあれば撃ち続けられるといったメリットがあります。

## ◆米・中の開発状況

米国は世界で最も実戦配備に近い状況であるとされ、艦載用のものによるドローン迎撃試験に成功し、車載レーザーでは巡航ミサイル迎撃を視野に入れているとされています。

中国は以前の記事でも書いた通り、パレードで6輪トラックに搭載されたものや艦載レーザー兵器の公開等を行っていますが、

いずれも実際の性能が不透明であり、多分にプロパガンダ的側面もあるとされています。

## ◆我が国の開発状況

平成22年度から始まった先行研究で破壊効果が確認され、平成30年度からの現行研究により高出力レーザーの開発に成功し、ドローンの撃墜にも成功しています。2024年の観閲式において車載型を初披露し(某大陸国みたい)、同時に護衛艦搭載レーザーの開発にも着手しています。前回レールガンの搭載試験を終えた試験艦「あすか」において、2023年からはレーザー兵器の搭載試験が始まっています。

## ◆レールガンとの違い

最後に、レーザー兵器とレールガンはどうちらも似ているような感じがしますが、それぞれの特徴から、レーザー兵器は対ドローンや小型ミサイル、迫撃砲弾等の比較的近距離での対処、レールガンは長距離からの対艦攻撃や弾道ミサイルの迎撃といった住み分けが考えられているようです。

## ▼▼編集後記▲▲

話は変わりますが、隊友会機関紙「隊友」のWeb化(インターネットでの閲覧)が進行しています。目的はズバリ経費削減で、既に今年の会長による「新年のご挨拶」にもあるように、IDとパスワードの入力で、現時点では誰でも閲覧可能となっています。このままだと誰もお金を払わなくなるので(冗談です)、今後は個人個人に配布されたIDでしか閲覧できなくなるのでしょうか。それ自体は当然の趨勢であり、自分もそのとおりと考えますが、問題はインターネットを全く持たない会員も実際におられるので、その限りにおいては紙媒体での配布も残ることになるのでしょうか。例によつて、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、「ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。